

■反省会は

問題を解消する場?

つい先日、ある企業のマネジャーに「いつも、会議でどのようなことをやっていますか?」と聞いてみました。すると「もちろん反省会ですよ。反省することはいっぱいありますから」という返事。非常にまじめなマネジャーであり、何としてもチームの問題を解消するために、メンバーから「うまくいかなかった点」を出してもらって徹底的に討議し合っているようです。

ところが「うまくいったことについて話し合わないのですか?」と聞くと、「え? それは、別に話し合わなくてもいいんじゃないですか?。うまくいっているわけだし」という反応。

もちろん問題を解消することは非常に重要です。しかし、うまくいっている点の検証はしなくても良いのでしょうか。

■「うまくいったこと」も

省みよう

辞書によると「反省」とは「自分の行動を省みること」とあります。「反省」と聞くとどうしても「問題

「うまくいったこと」を検証せよ!

点を検証する」というイメージがありますが、行動を省みるのであれば「うまくいったこと」も省みることが必要でしょう。

なぜなら、うまくいった行動にはさまざまな成功のヒントが隠れています。何気なく行動したことが結果を生み「ラッキー!」と感じる。しかし、「ラッキー!」で終わらせずに「なぜうまくいったのか?」を検証することで、それを次の行動に生かすことができます。

また、自分では「当たり前」に行



ジェック・インストラクター
松井達則
Tatsunori Matsui

動し、うまくいっていることが、他人にとっても「当たり前」とは限りません。うまくいく「当たり前」がメンバー間に共有されれば、チーム全体のレベルアップにもつながるはずです。

■「うまくいったこと」を

省まない理由

言われてみれば「確かにうまくいっていることを検証することは大切だ」と誰しもが思うのですが、実際にそれを行っている人は少ない

のが現実です。

うまくいかなかった場合は「次は何としてもうまくいかせたい」「そのような問題は回避したい」という気持ちがある一方で、反省することも多いのですが、うまくいった場合は「良かった」と安心してしまい、その行動をあらためて省みようという場合が多いようです。特に、毎回当たり前のように行っている行動についてはなおさらです。

しかし、スランプになった時のことを考えてみてください。

「何で、あの時はあんなにうまくいったのだろう?」と一生懸命思い出そうとするのですが、目の前のピンチで頭がいっぱいになり、なかなか思い出せない…。

そんなことにならないように、日ごろから、ぜひうまくいったことも逐一検証しておきたいところです。

■行動の奥にある

信念(行動理論)が力ギ

では、「うまくいったこと」の何を検証すれば良いのでしょうか。

まずは、行動の一つ一つを振り返り、どの点が成功ポイントだったかを探るのが基本です。その際に、「うまくいったこと」に至るまでの行動

④「うまくいく」信念とは？

そのような行動を取った奥にある、自分なりの信念(行動理論)はどのようなものだったのでしょうか？

例…「思い切って上司に提案しよう」(心得モデル)

「熱意を持って本気で提案すれば、上司は聴く耳を持ってくれるはずだ」(因果理論)

「仕事とは、本音で語る場である」(観)

⑤信念がもたらすものとは？

④のような信念を持ち続けていた場合、今後どのようなケースで、どのような成功につながると考えられますか？
思いつくままに複数書いてみてください。

例…「勝負のプレゼンで、思い切った提案を行い、結果として一目置かれる」

「他の人が言いにくいことを進言することで、取り引き先の経営者から頼りにされる」